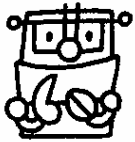


小 / 理科 / 6年 / 物質とエネルギー /
物の燃え方と空気 / 理解シート

木炭は、なぜ、においや水のよごれを吸いとるの^す



木炭は、目に見えない、小さいあなが無数にあいてい
るので、その中ににおいやよごれを吸いとるのさ。

木炭には、分解されて出ていった成分の、小さいあなが無数にある

木を空気にふれないようにして熱すると、木のあちこちから、熱で分解された燃える気体が出ていきます。燃える気体が出なくなったところで熱するのをやめると、木炭ができています。残った木炭には、熱で分解されて出ていった成分の、目に見えない小さいあなが、数えきれないほどあいています。

いやなにおいは、目には見えないけど、においのもとになるものが空気中にただよっています。よごれた水に色やにおいがついているのは、バクテリアや、色のもとになるものが、水にとけているためです。木炭で、空気中のいやなにおいをとりのぞいたり、よごれた水をきれいにするのができるのは、木炭の無数に空いたあなの中に、においやよごれのもとになるものや、バクテリアなどが、ひっかかってとらえられてしまうからです。

酸素にふれさせないと、高温にならないから木炭が残る

木を空気中で燃やすと、熱で木の成分が分解されて出てきた気体が、空気中の酸素と急激きゅうげきに結びつきます。そのとき、熱や光を出すため、ほのおが赤くかがやいています。この出てきた熱で、さらに、木は燃え続けます。

空気にふれさせないで木を熱すると、酸素と結びつくことができないため、熱や光は出ません。そのため、高温でないと燃えない、木のおもな成分の炭素が、木炭となって残ります。木炭も、空気中で強く熱し続けると、けむりを出さずに燃えま

粉にした木炭を布づくろに入れたもので、
部屋のいやなにおいが消せるのよ。

